

令和7年3月24日

学校法人 宝国学園 真教寺宝国幼稚園

1. 本園の教育目標

まことの保育の実践による「一人ひとりの今が輝く保育」

- ・みほとけさまを拝む子ども
- ・ありがとうと言える子ども
- ・お話を聞ける子ども
- ・仲良くできる子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・子どもの気付きを学びにつなぐ

{重点課題}

- ・こどもの気付き、発見、つぶやき等に応答的に関わりながら、年間を通して遊び活動につなげる
- ・異年齢保育活動の充実一年間を通して、運動遊びや外遊びでのわらべうたや鬼ごっこなどルールのある遊びを子どもたちで展開できるようにする。なかよしデーのカリキュラムを作成する。
- ・体の使い方の基礎を室内、戸外での遊びの中で育まれるようにする
- ・公開保育など研究保育を通して、保育の質の担保に努める

3. 評価項目の達成及び、取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	保育の継続性	B	異年齢保育や坂道・公園を使っでの運動遊び、各クラスでのテーマを持った遊びを年間通して発展させ、継続して遊ぶことができた。子どもたちだけでの遊びも展開できるようになっている。
2	特別支援児への対応・関わり	B	個別対応で様々な支援を考えたり、職員間での共有はもちろん、他機関との連携も多くとれた。
3	保護者への対応	C	保育の見える化で在園児向けのInstagramを開設した。以前より子どもの様子を伝えることができたが、来年度は更新頻度を上げるように努めたい

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果なかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	子ども主体となる保育をどの学年も様々な工夫を凝らし、環境構成ができていた。担任も一人で抱え込まず、チーム保育が浸透してきて職員同士話し合うことができてきている。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果なかった）

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	異年齢保育	夏期保育でなかよしグループがとても親密になってきていたが、2学期後半からあまり時間がとれていなかったように感じる。年間通してきちんと時間を確保する。
2	教育課程の理解	幼稚園教育要領を読み解き、園の理念のもと、子どもの生活が豊かにまた主体的な活動になるように保育の計画を立てていく。
3	研修	園内研修は計画して行うことができ良い学びになったが、園外の研修にもっと課題を持って参加していきたい。また行けるように配置等を考える。

6. 学校関係者評価委員会の評価

有志を募っての保育参加は、多様な内容で子ども達との関わりを体感できるものであり、保護者の良い反響があった。 クラスで共有しているアイテムや話題を発展させた自主的で、連帯感のある集団遊びが見られた。一方、クラス担任の枠を超えた子ども達の見守りも感じられた。 父母の会会長 甘庶 利恵
--